

こうかい ひこうかい べつ
公開・非公開の別

■ 公開 □ 部分公開
□ 非公開

第7回浜松市外国人市民共生審議会会議録

- 開催日時 令和4年3月24日(木) 午後2時00分から午後3時30分まで
- 開催場所 オンライン会議システム ZOOM
- 出席状況
委員 シム キュマン (韓国)
杉野 アドリアーナ (ブラジル)
鈴木 エバ (フィリピン)
妹尾 圭持 (知識経験者)
孫 玉傑 (中国)
丹野 清人 (学識経験者)
バンバン ハリアント (インドネシア)
レニ ブラエニ (インドネシア)
事務局 国際課 課長 鈴木 三男
国際課 課長補佐 松井 由和
国際課 主任 石黒 雄資
- 傍聴者 0人(一般:0人、記者:0人)
- 議事内容 (1) 日本人市民及び外国人市民の意識実態調査結果の報告
(2) 浜松市多文化共生都市ビジョンの改定について
- 会議録作成者 国際課 主任 石黒 雄資
- 記録の方法 発言者の要点記録
録音の有無 有・無

8 会議記録

(1) 開会・挨拶

《国際課長挨拶》

(2) 日本人市民及び外国人市民の意識実態調査結果の報告

《事務局：資料に基づき、日本人市民及び外国人市民の意識実態調査結果の報告について説明》

(シム委員)

- ・ 貯金額は1年あたりか総額か。

(事務局)

- ・ 総額である。

(丹野委員長)

- ・ 貯金が少ないのは仕方がない面がある。3人に1人が家を持っているので、ローンで今はなかなか貯金ができないこともあるだろう。ただし、今後の貯金については考えてもらいたいところである。

(レニ委員)

- ・ 外国人の感覚としては、お金は使った後に残ったら貯金するという考え方で、使う前に計画的に貯金するというのはあまりなじみがないのではないか。
- ・ 年金積立など貯金の種類や収入に対する貯金方法や貯金割合などの知識を増やした方がよい。

(杉野委員)

- ・ 貯金方法にはいろいろある。銀行預金のほかに、母国の金融商品を買うとか皆少しずつやっているのではないか。

(丹野委員長)

- ・ その可能性はある。母国に送金しているパターンもある。

(事務局)

- ・ 補足情報として、この調査の外国人市民の回答者は、20代から40代で6割を超えている。
- ・ 貯金方法については、銀行預金は59.6%、個人年金などの保険に入っている人は24.9%、積立投資をしている人は9.4%となっている。

(丹野委員長)

- ・ やはり外国の方もいろいろな方法で考えているということである。

(鈴木委員)

- 例えば、給料から天引きされる積立金も貯金と言える。少額でもできる積立金はおすすめではないか。

(丹野委員長)

- そういうことも知らせていく必要がある。

(孫委員)

- 雇用・労働について、無職の人の割合がわからない。

(事務局)

- 回答では、「仕事をしている人」が77.5%、「仕事をしていない人」が13.8%、「仕事を探している人」が4.0%であった。「仕事をしていない人」がどのような理由で仕事をしていないのかは質問していない。

(丹野委員長)

- 仕事を探している人がどの年齢層なのかは気になる場所である。

(妹尾委員)

- 貯金や年金について、厚生年金や社会保険は日本人の若い人でも仕組みをしっかりと理解している人は少ないと思う。特に外国人の場合、手取りが減ってしまっただけで損であると考えられることもあるのではないかと。会社が半分負担していることや加入することによるメリットを伝えていけるとよい。

(丹野委員長)

- 日本はブラジルなどの国と社会保障協定を結んでいる。日本で保険料を払っていただければ、将来母国に帰っても年金がもらえるということを周知していく必要がある。

(3) 浜松市多文化共生都市ビジョンの改定について

《事務局：資料に基づき、浜松市多文化共生都市ビジョンの改定について説明》

(孫委員)

- 青少年のキャリア形成については、どのような取組を考えているのか。

(事務局)

- 今後取組を強化していきたいと考えているが、まずは皆さんから何が足りないのか、どのようなことを求めているのか教えていただきたい。

(孫委員)

- 外国ルーツを持つ子の中には、英語以外の外国語と日本語が話せる子がいる。そうした子が

高校に進学したとき、部活動などで自分のルーツから視野を広げられるようになるとうい。

(丹野委員長)

- 大学入試には、CEFR という英語以外の言語能力を換算する考え方が使われる。就職時にも活用されていて、英語以外の外国語ができるとう利である。母語を教え続けることも大事である。

(孫委員)

- 特定の学校に限らず、部活動で母語を使う機会があれば、モチベーションも上がる。こうした機会が広がれば、外国人材の活躍につながると思う。

(レニ委員)

- 子どもにルーツを教えるのは大事である。コロナ後、ふれあいの機会が増えるとうい。

(事務局)

- 日本語を覚えたり、教えたり必要はあるが、グローバルな視点でいうと、複数の国にルーツを持つ子のポテンシャルは大きいものだと感じる。

(丹野委員長)

- こうした子どもたちを地域の力にしていくことが一番重要なことである。日本で生活するにはもちろん日本語が必要であるが、その先を見据えて母語を身につけることは子どもの将来につながり、家庭でのつながりも増える。
- 日本語教育は同化政策とも捉えられがちである。それだけではなく、多文化共生というなら、自分たちが持っている言葉や文化を持ち続けられることが本来だと思う。

(杉野委員)

- 浜松市にはいろいろな国の人がいる。日本人が外国語を覚えることがあってもよい。
- 浜松市立高校のインターナショナルクラスでは、ポルトガル語を勉強する。子どもたちは楽しんでると思う。

(丹野委員長)

- それを評価して、広めていけるとよい。

(妹尾委員)

- 母語をしっかり勉強することが、進学や就職に役立つことをしっかり情報発信できるとよい。また、浜松から外国で活躍することも期待できるし、それを応援できるとよい。
- 杉野委員の日本人が外国語を学ぶというのは興味深い。ペアリングで互いの言語を教え合うことができれば素敵である。

(シム委員)

- ・ 韓国では高校で英語以外の第2言語があり、自分の場合はドイツ語かフランス語を選択できた。
- ・ 第2言語があれば、地域でのコミュニケーションもうまくできる。日本の高校では第2言語は何を選ぶのか。

(丹野委員長)

- ・ 公立高校は英語のみである。私立高校だと第2言語があるところもある。

(杉野委員)

- ・ 外国では高校生のうちに英語以外の言語を学ぶ。日本では大学で学ぶにしても1年間である。子どもは言語を学べば楽しいと思う。

(バンバン委員)

- ・ どの国に行っても、自分の国の言葉を持っているのはプライドとなり、愛着が生まれる。
- ・ 子どもが外国語に触れれば耳慣れてくる。子どもへの教育が一番大事で、未来への貯金とも言える。

(丹野委員長)

- ・ 確かに、子どもへの投資という点で貯金とも言える。
- ・ ビジョンは大枠が書かれることになるが、具体的に何をするのか重要になる。今後は皆さんからの具体的な要望を聞かせてほしい。

9 事務局からの連絡事項

10 閉会